

I 学ぶ

1 講座

「講座」とは、特定の目標やテーマにそって10~15程度の授業を履修し単位を取得する文芸学部独自の取り組みです。講座群A（実務）は、情報処理検定講座、編集技術講座、英語通訳ガイド講座、フランス語通訳ガイド講座の4講座が、講座群B（文化）は、広告文化講座、編集文化講座、シェイクスピア講座、日本人論講座、ポピュラーカルチャー講座、地中海講座、ジェンダー講座の7講座があります。修了すると講座修了証が授与されます。所属コースで専門性を深める学びとは別に、大学での学びにもうひとつの「自分らしさ」を形にすることができます。



2 動画を活用した授業

授業に動画を取り入れることで、さまざまな視点からテーマにアプローチすることができます。例えば、日本人教員が担当する外国語の授業では、ネイティブの先生による発音講座の動画を用います。また、招聘した学外講師の講演を学内でインターネット配信することで、より多くの学生に聴講の機会が開かれます。入学前の学生を対象にした授業紹介などにも動画を活用しています。



3 十二単着装の見学

平安文学の授業の一環として、十二単の着装見学を行っています。ハクビ京都きもの学院の先生を講師としてお招きし、講義をうかがいながら、着装の仕方を見学します。当時の貴族の女性はほとんど外出することなく室内で過ごしていたわけですが、実際に十二単を目の当たりにすると、いかに衣服に行動が規制されていたかを想像することができます。百人一首の絵札に描かれる女性の座り姿や、ゐぎる動作、衣ずれの音など、資料集を見るだけではなかなか伝わらない部分が見えてきます。着装見学は主に十二単ですが、直衣や狩衣など男性装束も着付けをしていただいています。ちなみに、どちらもモデルは学生です。



4 ゼミ展

1年次の文芸ゼミのうち、須田クラス（絵画）では共立祭でゼミ展を開催し、学生による作品の発表に加え、東日本大震災の震災孤児支援のためのチャリティ活動を行っています。作品はパステル、水彩、油彩、鉛筆など多岐にわたり、毎年好評を博しています。学生にとっては、この展覧会を通じて作品の制作と発表、展覧会の企画、運営、展示、販売などを経験し、机上では得られない多くのことを学ぶ、貴重な機会となっています。また同時に、ゼミ展、チャリティ活動の経験者である上級生や卒業生有志の協力を通じ、学年を超えた多様な交流の場ともなっています。



II 読む

1 ブックマラソン

文芸教養コースでは、多くの本に触れて世界を広げることを目的に、特別プログラム「ブックマラソン」を実施しています。このプログラムでは、教員による推薦図書リストと読書ノートを学生に配布し、学生は読書の記録を書きます。共同研究室にはブックマラソン用の書棚を設置し、推薦図書の貸出も行っています。授業にも積極的に導入されており、ブックマラソンのリストから卒業論文のテーマを選ぶ学生が出てくるなど、学生が本に親しむ良いきっかけとなっています。



2 リーディング・マラソン (Reading Marathon)

英語・英米文学コースで行なっているReading Marathonは英語の速読教材を使って、学生の自学自習を支援するシステムです。教材はレベル別に分かれており、単語や文章の難易度そして長さなどを段階的に引き上げてゆくことで、学習者の英語力を無理なく養えるようになっていきます。英語英米文学コースでは42冊の英語速読教材を読破することを目指し、参加者に専用のファイルを配布します。1冊読むごとにスタンプを押す「スタンプ・ラリー」で、学習者のモチベーションを保つ工夫をしています。英文コース学生必修の授業に組み込み、英語力をアップするための体制を充実させています。リテラチャー・サークルの形式を取り入れた読書会は好評です。



3 プレジール・ドゥ・リール (Plaisir de lire)

「プレジール・ドゥ・リール」は読書の喜びという意味で、フランス語フランス文学研究室で実施している、日本語訳でフランス語圏の文学を読むプログラムのことです。フランス語圏文学はバラエティ豊かで、フランスのパリや地方、また、スイス、アフリカ、カリブ海、カナダのフランス語圏の文学を読んで、世界中を旅する気分を味わうことができます。ラ・フォンテーヌ『寓話』、サン＝テグジュペリ『人間の土地』(随筆)、ユゴー『レ・ミゼラブル』・デュマ『三銃士』(小説)、ランボー『地獄の季節』(詩)など様々なジャンルがあります。参加者には、資料やマップなどがついたカラフルな読書手帖が配付され、読了した冊数に応じてお祝いの品が贈られます。自分の世界が広がるような、わくわくするような読書体験が待っています。



III 究める

1 日本文学研究旅行

日本に居て日本文学を学ぶ事の利点は、文学の題材となった土地や、作家をはぐくんだ風土について、現地で確かめることが出来る点です。近年、各地の博物館、美術館が整備され、その土地に根差した文学芸術作品を収集し、頼もしいガイドとなっています。また、見学施設でなくとも、作家の住んでいた家やその近所などが風致地区として残っている場合もあります。こうした日本文学の舞台を巡る旅はどここの大学でもやっているありふれた行事ですが、この研究旅行の特徴は、日本文学演習を履修する学生有志が計画を立てるといふ点にあります。



2 造形芸術研究旅行

造形芸術コース所属および美術史をテーマとした卒業論文を予定している2・3年次生を対象に、隔年で2泊3日の研究旅行を実施しています。研究旅行では作品の「実物」を鑑賞し、美術に関するさまざまな問題について議論し、物事の本質を追究するよう指導しています。メディアを通じて多くの情報が容易に得られる時代だからこそ、自分の目で確かめ、自分の言葉で考え、表現する機会をもつことは非常に大切です。



3 フランス語フランス文学コース研究旅行

フランス語フランス文学コースでは、毎年研究旅行を実施して様々な場所を訪れ、フランス語やフランス語圏の文化を学んでいます。軽井沢寮でフランス語強化合宿をした年もあれば、世界遺産になった富岡製糸場（設立時にフランスの協力がありました）や、箱根にある星の王子様ミュージアムを見学するなど、その内容は多岐にわたります。昨年度は箱根のポーラ美術館を訪問し、「ピカソとシャガール」展を鑑賞しました。例年、国内での研究旅行にはフランス、スイス、そしてアフリカのベナン共和国からの交換留学生たちも参加しており、フランス語での会話や文化交流が生まれることも。教員、助手、学生、留学生の間で、そして学生同士でも学年を超えて、親睦を深める機会になっています。

39



4 源氏物語研究会

源氏物語研究会では、月1回、源氏物語の読書会を行っています。研究会参加者は、日本語日本文学コースに所属する学生だけでなく、源氏物語の英語訳を卒業論文のテーマに選んだ英語英文学コースの学生や、文芸教養コースから文芸の大学院に進んだ院生、家政学部を卒業したのち日本文学に興味を持った卒業生等、バラエティにとんだ顔ぶれです。今年度はいわゆる玉鬘十帖を読みすすめており、真木柱巻までたどりつきました。1回の読書会で4～5頁ずつゆっくり読み、語り合うことで、大勢で読むからこそ深まってゆく「読書」を楽しんでいます。

40



5 文芸メディア研究集会

文芸メディアコースでは、メディアに関連のある様々なジャンルの方を、主に外部から講師としてお招きしています。コースの学生だけでなく学部内の学生に広く参加を呼びかけています。1時間ほどの講演後、30分ほどの質疑応答の時間を予定していますが、毎回時間オーバーしてしまうほどメディアに対する文芸学部学生の関心は高く、また講師の方たちもそれによく応えてくださいます。今後も、より革新的に、より創造的にさらなる内容の充実をはかってゆきたいと、コースの教員一同、考えています。

41



6 「私が読んだ一冊」ポスター発表

英米文学研究Bの授業では、自分が読んだ文学作品の魅力をポスターにまとめ、それを鑑賞しコメントし合う機会を設けています。一冊の本についてポスター一枚で伝えるには、その作品についての客観的知識だけでなく、自分がその作品のどこに「良さ」を感じたのか、深く考えることが必要になります。学生にとっては作品とじっくり向き合う契機となっているようです。また、他の学生のポスターを見たことで未読の作品に関心を抱き、次に読む作品が決まった、という声も多く聞かれます。

42



IV 楽しむ

1 フランス語劇上演

1970年に仏文学コース5期生が神保町の岩波ホールを借りてモリエール作『町人貴族』を上演したのが「フランス語劇」の始まりです。その後歴史をかさね、『千夜一夜物語』や日本の昔話のパロディーをフランス語劇に仕立てた作品は、学外にも招待されました。また『洋なし太郎の冒険』、『サンドリヨン』は好評で、その脚本はNHKフランス語講座テキストで紹介されました。現在ではフランス語フランス文学コースの2・3年生を中心に上演チームを編成し、共立祭で公演を行っています。字幕や音楽、ポスターデザインなどの裏方も学生が担当しています。2016、17年度は、フランス語劇の原点にかえり、モリエールの代表作『ドン・ジュアン』を2年かけて前編・後編と上演し喝采を浴びました。脚色、演出、フランス語の発音および演技指導にはさまざまな方々にご協力いただき、コースをあげて舞台の成功に向けて取り組んでいます。



2 合同観劇会

劇芸術コースでは「合同観劇会」があります。半期に一度、年二本、教員が選定した舞台作品を観劇し、その所感を観劇レポートにまとめて提出するというものです。作品は一本が現代劇、もう一本が歌舞伎や文楽などの古典芸能から、劇芸術コースの授業内容に資する作品が選ばれます。観劇前には教員が作品解説と鑑賞のポイント紹介をします。高いチケットが買えない、又は鑑賞作品の選択に困る学生でも話題作が低価格で見られます。近年の観劇作品は、世田谷パブリックシアターの『子午線の祀り』と国立劇場の『隅田春妓女容性』でした。コースの教員・学生全員で同じ作品を鑑賞するので、全員で舞台について話し合う良い機会でもあります。

V 称える

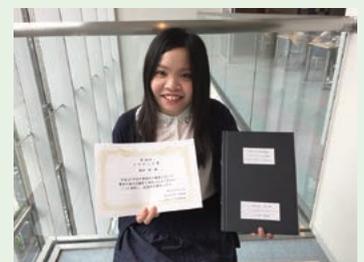
1 さくら賞

「さくら賞」は、1967（昭和42）年に、文芸学部における当該年度最優秀卒業論文・卒業制作を顕彰するために設置され（発足当初の名称は「サクラ賞」）、半世紀近くになんたって文芸学部学生たちの卒業論文・卒業制作取り組みのモチベーション・アップに大きく貢献してきました。例年、受賞者には学部長の手により賞状と記念品が卒業証書とともに学位記授与式の際に授与されています。また「さくら賞」を受賞した造形芸術コース学生の卒業制作作品は、全学の入試広報用パンフレットや文芸学部独自の広報活動に使われることも多く、卒業制作に取り組む造形芸術コース学生たちの大きな励みとなっています。



2 マリアヌヌ賞

マリアヌヌとはフランス共和国を象徴する女性、母性や自由などの理念のアレゴリーです。「民衆を導く自由の女神」（ドラクロワ）の果敢なマリアヌヌは素敵だと思いませんか。フランス語フランス文学コースでは、毎年卒業祝賀パーティで優秀な卒業論文の執筆者を表彰しています。卒業生がマリアヌヌのように、しなやかにしたたかにそして幸せに生き抜くようにと願い、この賞は、マリアヌヌ賞と名付けられました。受賞者には、南仏プロヴァンス陶器のお皿が贈られる習わしです。学生たちはフランス語やフランス文学また音楽、映画やバレエなどフランス語圏文化に関するテーマの面白い卒論を日本語またはフランス語で書いています。



3 文教賞

文芸学部における年度最優秀卒業論文・卒業制作に授与される「さくら賞」の候補作推薦は、原則として各コースから1つとされているため、各コース内で選考を行ないませんが、甲乙つけがたいことも多く、選考には各コースとも苦勞しています。そこで文芸教養コースではコース内の「さくら賞」推薦候補作すべてに「文教賞」を授与しています。毎年10作ほどの「文教賞」には、賞状と記念品が卒業証書とともに学位記授与式の際に授与されており、学生の卒業論文執筆の際のモチベーション・アップに寄与しています。



4 すみれ賞

「すみれ賞」とは、劇芸術コースで特に優秀と認められた卒業論文や卒業制作（戯曲もしくはシナリオの創作）作品に対して授与される賞です。卒業式後のコース別学位記授与式の際、表彰状と賞品の贈呈式を行います。「すみれ賞」は、文芸学部全体から選出される「さくら賞」の候補になりながら惜しくも受賞には至らなかった論文・作品に対する教員からの賞賛を形にして残したいという思いから生まれました。受賞作品の一部は『櫻雲』に掲載されます。小さくても凛としたすみれのように、教員からのエールが受賞者の心に咲き続け、卒業後の人生を励まし、また後に続く学生たちの道標になってほしいとの思いが込められています。



5 プリマヴェーラ賞

造形芸術コースでは、4年次の卒業論文発表会及び卒業論文・卒業制作展を通じてもっともすぐれた論文または作品を選考し、これにプリマヴェーラ賞を授与しています。それとともにすべての論文・作品の概要を「プリマヴェーラ（イタリア語で春の意）」と題する冊子にまとめ、毎年発行しています。そこには各人の4年間の軌跡と成長がうかがわれ、実に興味深く、感動的ですからあります。



6 英語英米文学コース卒業論文報告会

英語英米文学コース4年生では全員参加の卒業論文報告会を行っています。昨年度は一人ひとりが自分の論文の内容を表すポスターを作成し、論文の趣旨を発表しあう、ポスター・プレゼンテーションを行いました。文学・文化・言語学・英語教育など、改めてコースの研究分野の幅広さを実感する機会でもあります。力作揃いのポスターと小さなグループでの口頭発表で、お互いの研究への理解が深まりました。報告会は半日がかりの楽しいイベントです。



7 絵画卒業制作・学外展

造形芸術コースの卒業制作ゼミでは、学内での卒業制作展の後、銀座の画廊で毎年学外展を開催しています。銀座の画廊での展示会は実に晴れがましいことですが、一方で専門家の厳しい視線に耐える作品であるか、学生にとっては緊張の展示会でもあります。「毎年楽しみにしていますよ」といって下さる方もいらっしゃって、学生にとっても教員にとっても励みになります。会場には卒業生たちも来場し、旧友との再会の場となり、学内、学外を問わず多くの出会いが生まれています。



VI 伝える

1 『文芸学部報』

『文芸学部報』は1968年の発刊以来、文芸学部の教育・研究活動を内外に伝えてきました。企画・編集から原稿の依頼・受け取りまであらゆる業務を、学生と教員の間を媒介する各コース研究室の助手たちが担ってきました。『文芸学部報』は、自由闊達な文芸学部らしさを伝えるメディアであり、毎号組まれる特集記事は、文芸学部らしい興味深い読み物にもなっています。



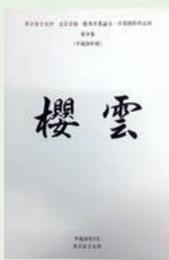
2 『K-RITs』

DTP基礎実習Bという授業では、雑誌『K-RITs』を制作します。履修者全員が神保町を広く取材し記事を書き編集にあたるのです。企画書を作成し、取材先の店舗や施設などに連絡をとって協力を仰ぐ作業から、写真を撮影しインタビュー記事を書き、取材後DTPソフトでデータをまとめるまで、指導教員と一丸となって取り組みます。様々な問題を乗り越えながら「協力」や「社会貢献」の経験値を積むことをねらいとしたアクティブ・ラーニングは、学生にとってかけがえのない経験となるばかりか、就職活動を行う上でも役立っています。なお『K-RITs』はオープンキャンパスで希望者に配布しています。



3 『櫻雲』

文芸学部の最優秀卒業論文・卒業制作に授与される「さくら賞」受賞作とともに候補作から選抜された論文・制作の概要を掲載する作品集を、『櫻雲』という名称で2010年から発行しています。『櫻雲』の存在は、文芸学部学生のモチベーション・アップに大きく貢献するだけでなく、3年次学生対象の卒業論文・卒業制作ガイダンスの際に配布され、卒業論文・卒業制作の大切な資料となっています。



54

4 『卒業論文・卒業制作概要集』

造形芸術コースでは、卒業論文と卒業制作の概要をまとめた冊子を毎年発行しています。1人1ページずつ、卒業論文の場合は論文の要旨と執筆後の所感、卒業制作の場合は作品の写真と本人のコメントを掲載しています。分野は西洋美術史、日本美術史、絵画、彫刻の4つですが、内容は中世から現代まで、西洋から日本まで、人物あり、動物あり、抽象に至るまで、多彩です。



55

5 『文芸FD報告』

文芸学部では、独自に行ってきた教育改善の様々な試みの締めくくりとして、教員が一年間自分の担当した授業を振り返り、それを共有するものとして『私の授業を振り返って』を発行してきました。こうした内容を引き継ぎつつ、さらに将来を見据えあらゆる関係者に説明責任を果たすべく、本年度より『文芸FD報告』として内容を刷新することとなりました。前身と同様に、この『文芸FD報告』は学内外に配布されるだけでなく、PDFでも公開される予定です。



56

6 『文學藝術』

1968年、当時文芸学部が付設されていた文芸研究所の機関誌として『文學藝術』が創刊されました。以来、『文學藝術』では毎月特集を組み、論文だけでなくエッセイ、研究余滴、回想録など多彩な表現を許容しており、専門の垣根を越えて思考し、実践する、文芸学部の気風を体現したメディアとなっています。現在は執筆者は全学の教職員に及んでいます。



57

7 『タ・ケパライア』

文芸教養コースでは2017年度より、卒業論文の概要をまとめた冊子を制作しています。タイトルはギリシャ語で「総仕上げ」を意味し、ゼミごとに1人1ページ、タイトルと目次・要旨、2、3年生に向けた一言メッセージが書かれています。卒業生にとっては自分とゼミ・コース生の学びの集大成となり、またこれから文教コースで卒論を書こうとしている学生にも参考になると好評です。



58

Ⅶ 出会う

1 「OGネットワーク」によるキャリア支援

文芸学部卒業生の交流組織である「文芸OGネットワーク」では、2011年よりOGの立場から「在学生の就職支援」に踏み出し、働くことへの認識を深めるトークイベントを継続的に行ってきました。文芸学部の学生にとって適切な就職支援とは何か、先輩としてできることは何かをともに考えながら、社会に出る前のウォーミングアップとしてOGネットワークの活動を利用しただけのようなサポート体制を整えていきます。



59

2 桜会展

「桜会展」は桜会会員による展覧会です。桜会とは主に絵画ゼミ卒業生の集まりであり、その名称は共立女子大学の校友会である桜友会の桜に由来します。そのきっかけは、2012年に、桜友会のサポートにより神保町すずらん通りの檜画廊で開いた展覧会です。始まってからまだ日の浅い取り組みですが、長い伝統を誇る共立女子大学の絵画教育の成果を体現するものであり、絵画を志す在学生や文芸学部を志望する高校生にも良い刺激となっているようです。桜会が卒業生と在学生の、年齢や肩書き、学年を超えた出会いと交流の場として発展することが期待されています。

